



も と は し つ う し ん

# 本橋通信

第41号  
2024年1月

本橋Fαオフィス 電話:090-7909-2111/メール:rmotohashi0419@gmail.com

★★★この本橋通信は、私とご縁のあった方に差し上げている個人通信です★★★



ゆく年、くる年に考えたこと…



皆さまこんにちは。本橋通信第41号をお届けいたします。今月もどうぞ最後までお付き合いください。2024年の幕開けです。昨年も皆さんから、嬉しいお話・悲しいお知らせ、想定外の困難など、たくさんの「実はね…」をお聞きしました。FAとしていろいろなお考えや身の上話をお聞かせ頂けることに感謝です。

私も年々歳をとる中で、失われることも多々あります。そこは蓄積された経験値で補いながら付加価値提案、時には引き算発想で取捨選択の提案、でもまだ少しだけ新しいこともチャレンジして、着実に前進したいなと考えを巡らせている年末年始です。恒例のネタですが、昨年23年の「今年の漢字」は「税」でした。なんか嫌な感じ(漢字)ですよ～ 減「税」なのか増「税」なのか、お国や政治家センセに期待することなく、自分自身の将来はご自身で守り、切り拓かないとまらない時代感であることは間違いなしですね。

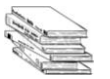
外に目を向けると、大きな転換点になろう兆しも随所にあります。世界経済の中心とも言える米国では、インフレと戦うべく22年3月よりハイペースで取り組んできた政策金利引き上げを終結し、24年中にはいつ頃からどのくらいのペースで、深刻な景気後退を回避しながら金利を引き下げてゆくのか？が話題になりそうです。欧州も濃淡はありながら基本的にはこの路線です。やや周回遅れの日本でも、企業が提供する製品・サービスへの価格転嫁を通じた業績回復や賃上げ実施(主に大企業中心なのですが)を起点



に生活者の消費行動への波及へと、長年社会に染みついたデフレ感から脱する転換点の年に出来るか否かがポイントでしょう。世界で続く複雑な大儀の「戦い」には抵抗できませんが、物価高や増税との「戦い」には、新NISA(少額投資非課税制度)での資産運用を通じて購買力を守ることで対抗できます！※22年の今年の漢字は「戦」でした。



MFAO(Motohashi Financial Advisors Office)の本棚より



新年初回の本棚は、資産運用関連の本より、『キャピタル 驚異の資産運用会社』(著者:チャールズ・エリス氏)をご紹介します。帯には「こんな会社にお金を預けたい！」という言葉が目を引きまます。キャピタル社は、米国にある非公開の独立系資産運用会社であり、約90年前の創業以来、マスコミへの露出や派手な宣伝広告もなく、ファンドの乱造もせず、ひたすらに米国個人投資家からの長期資産形成のための運用資金を受託するプロ集団です。当社のファンドは企業型401K(確定拠出型年金)や、私のような独立系ファイナンシャルアドバイザー経由でお客さまに紹介されています。証券会社や銀行のような大手販売会社の窓口では販売はないのです。当社の運用ノウハウ云々というより、運用会社としての、大切なお金を預かるに相応しい長期戦略的な思考、目的意識の一貫性、社員の個性を尊重し弾力的な組織運営、ユニークな運用体制と報酬体系(これは大切なポイントで、スターファンドマネージャーは作らず、キャピタル・システムという複数ファンドマネージャー制、パフォーマンス測定は約8年と長めの評価軸…と運用者がじっくり仕事に専念できる環境です)。著者C・エリスは、効率的な資産配分のバイブルである自著『敗者のゲーム』の中で、全ての情報を織り込む株式市場で投資家がそれを上回るパフォーマンスを上げるのは至難の業だ。よって資産運用の成功には、市場全体を丸のみするインデックスファンドに勝るものなしと主張します。そのインデックス運用信奉者の彼をして、経営・運用哲学、組織体制が秀逸だ！と言わしめるキャピタル社のアクティブ運用の神髄がこの本に…



## ✍️ IFA (Independent Financial Advisor) 本橋の視点より ✍️

共同通信社さま経由にて、各地方新聞紙面「ライフセミナー」コーナーに掲載中のコラムより：辰年の資産運用のヒント…

\*\*\*\*\*

Q. 干支にちなんだ相場格言から、辰年の資産運用にヒントはありますか？

A. 2024年の干支は十二支では辰年ですが、正式には十干で最初とされる「甲」と組み合わせた甲辰(きのえ・たつ)の年です。「甲」は、生命や物事の始まりを意味し、「辰」は草木が伸びて形が整い、活気あふれる様子を示すと言われます。

そして辰に例えられる龍は、空想上の生き物でありながら、昔の中国では帝王の生まれ変わりとされ、権力・正義の象徴だったようです。

天高く力強く昇る龍の姿から連想なのか、株式相場の格言では、「戌亥で買って、辰巳で売れば蔵が建つ」と言われるように、辰年には景気が良くなり株価は天井に向かうとも言われています。(相場格言では「辰巳天井: たつみてんじょう」)

辰年はこれまで、東京オリンピック開催、ロッキード事件やリクルート事件の発覚、2000円札発行…など、大きな社会の変化があった年なのです。※政治とカネの問題、新紙幣の登場など、なんだか巡り合わせのような感じすらしますね～

2024年は非課税の投資額が拡大され、投資期間も恒久化に刷新された新NISA(少額投資非課税制度)の幕開けの年。投資家の皆さんにとっても、様々な社会の変化=CHANGEをチャンス=CHANCEに出来る年になりそうです！

しかし、相場格言では「辰巳天井」であることを忘れてはなりません。こんな時こそ、冷静に投資プランを練って、慎重に行動することが、長期の資産運用には大切です。(独立系ファイナンシャルアドバイザー 本橋竜一)



★★

辰年に新NISAで投資デビューされる方には、T型投資=Timid investing(臆病な投資術)がオススメです。その心は…チェンジのGから、臆病なTを取れば(=リスクを抑え少しずつ分割投資をすれば)、チャンスのCが到来します。新年投資とんちにお付き合いいただきました！(笑)

### ◆編集後記◆

※〇〇が100倍になっても、〇〇がある世界なのか？

日本銀行の植田総裁の口から「チャレンジングな年末年始に…」との発言を機に、ドル円相場が急に乱高下となり、一時ドル円は141円台をつけました。遂にマイナス&ゼロ金利時代が終わり、金利のある世界が来るのか！と市場関係者は驚いたのでしょうか。今や海外では、金利のある世界は当たり前で、最近では日本でも外貨預金や外貨MMFの金利は5%程度と、感度の良い投資家の間では少し話題です。銀行の円定期預金も金利が100倍に…と話題ですが、0.00\*%の0が二つなくなるだけで、もはや通帳上では「誤差」ですね。

◆今後本通信をご希望されない方は、お手数ですがお知らせ下さいますようお願い致します◆

### 【発行者プロフィール】

本橋 竜一(もとはし りゅういち)、1974年4月19日生まれ。東京郊外八王子の高尾在住。早稲田大学卒業後、横浜銀行で金融マンとして社会人をスタートしました。その後、国内(あおぞら銀行、みずほFG、三菱UFJ)、外資系(スイスUBS)金融機関にて、約15年間に渡ってプライベートバンキング(ご資産家のお客さま専用金融サービス)を経験し、ファイナンシャルアドバイザーとして独立開業。家族は妻、娘、息子の4人。



趣味はエンジョイゴルフ(スコア3桁でも緑の芝で気分爽快!)と読書(ジャンル無差別:乱読・積読?)

お客さまに対する想い:人生に専属のファイナンシャルアドバイザーがいる安心感を提供したい…

本橋FαオフィスWEBサイトは  と検索! <https://www.pfa-withyourlife.jp/>

皆さまからのご感想・ご要望をどんどんお寄せください。

➡ 本橋携帯:090-7909-2111 メール:information@pfa-withyourlife.jp